

石包丁作成報告

平成 26 年 8 月 24 日の午後 1 時半から 7 月に坂出市の金山で採取したサヌカイトで石包丁を作成しました。

作成指導者として岡山商科大学・柳瀬特任教授、香川県から瀬戸内海歴史民俗資料館・大山館長、香川県埋蔵文化財センター・西村主任文化財専門員、香川県政策部文化振興課世界遺産グループ・藤好参事の計 4 人の考古学者においでいただき会員 17 人の参加で行いました。

まず最初は採取したサヌカイトの塊から包丁になるように薄い石片をつくることからスタートです。サヌカイトの石の目（摺理面という、石の表面をよく観察すれば見える）に沿ってハマーでたたき割って石片をつくります。と言ってもこれがむずかしい。部厚かったり、小さすぎたりして適当な石片はなかなかとりません。歩留まりは非常に悪いです。香川県からも予備のサカバもお持ちいただいたのですが、これも含め 7 月に採取したサカバもほぼ全部割ってしまいました。

石片がとれれば半分できあがったも同様。後は刃にするエッジを鹿の角の端でこするよう少しずつたたき割りながら刃を作っていきます。たたき割る時にフレク状の小さな破片が飛び、残った部分が刃こぼれしたようなギザギザのエッジになります。このエッジを砥石かコンクリートの床でこすってギザギザの突起部を削ってから再度鹿の角での作業を繰り返します。

この作業を繰り返しながら直線に近い刃を形成します。作業途中で石片が大きく割れてしまうことがあれば、それはお釈迦にし別の石片で最初からやり直しです。結構、根気のいる作業ですが午後 4 時頃までには各自 1～数個の石包丁をつくることができました。できあがった石包丁は 10 月に予定している種籾採取に使用します。

2014. 8. 25 小沢 記

